

駅構内と駅周辺施設における待ち合わせ場所の選択行動に関する研究

Choice of meeting spots around a station

平野 孝之**・大森 宣暁***・原田昇****

by Takayuki HIRANO**・Nobuaki OHMORI***・Noboru HARATA****

1. はじめに

現在、都市において、人が集う場所としてオープンスペースの設置が見直されている。例えば、鉄道駅においては、旅客流動に対する通路機能に加え、交流の場としてのコミュニケーションスペース機能が求められている。しかし、コミュニケーションスペース機能としての評価基準は確立されていないのが現状である。さらに、近年の携帯電話の普及により、従来とは全く異なる待ち合わせ行動が行なわれるようになった⁴⁾。

滞留空間の評価に関する研究は、空間設計手法の提案から待ち合わせ行動と場所の認識に関する研究まで、幅広く行なわれている。大原ら¹⁾は、広場の空間構成と利用形態に関する相関を分析することで、広場空間の設計手法を提案した。また、吉富²⁾らは、被験者に実際に待ち合わせ行動を行なわせるという実験を行い、行動記録とアンケート結果から、「待ち合わせやすさ」を評価基準として、待ち合わせ場所の評価を行なった。さらに、斉藤³⁾らは、待ち合わせ中の行為(アクティビティ)の可能性についてアンケート調査を行い、人の公共空間における居方の現況と場所との関係性を明らかにした。しかし、同一地区内における待ち合わせ場所の選択に関する研究はあまり行なわれていない。複数の待ち合わせ場所から特定の待ち合わせ場所を選択し決定する際に影響する要因を分析することで、待ち合わせ場所の評価を行なうことは有効であると考えられる。

また、待ち合わせ行動を考える際に、待ち合わせ前後の活動と関連付けられた行動として捉える必要がある。目的地選択や回遊行動範囲に関する研究として、加納ら⁵⁾は、街の回遊行動と活気との関係を分析するために、渋谷・池袋において駅周辺の道路ごとに通過人数を集計し、集客施設の影響・駅からの距離の影響・道路幅を説明変数として、重回帰分析を行なった。また、木下ら⁶⁾は、複数の地方中核都市を対象として取り上げ、現地配布・郵送回収調査を用いて回遊行動範囲を記録し、都心への来街手段や利用駐車場と歩行特性の関係を明らかにした。さらに、内田ら⁷⁾は、札幌市において回遊行動と駐車場選択行動のモデル化を行なうことで、駐車場配置問題を分析した。しかし、回遊行動の起点となる待ち合わせ場所と、回遊行動範囲や周辺商業施設の集客数などの関係を明らかにした研究は行なわれていない。両者の関係を明らかにすることはオープンスペースの設置の際に有用であると考えられる。

以上の背景から、本研究は、待ち合わせ場所の決定要因の分析に加え、待ち合わせ場所の違いによる回遊行動範囲の変化を分析することで、待ち合わせ行動に着目したオープンスペースの配置計画を提案することを目的としている(図1)。第一段階として、待ち合わせ場所として複数の選択肢が存在する大規模ターミナル駅の新宿駅を研究対象に取り上げ、待ち合わせ場所の選択とその際に重要視した評価項目をアンケート調査により把握し、待ち合わせ場所の選択の際に影響する要因を分析して、各々の待ち合わせ場所を評価した。

*キーワード：歩行者交通行動，待ち合わせ

**学生員，東京大学大学院工学系研究科

***正員，工博，東京大学大学院工学系研究科

****正員，工博，東京大学大学院新領域創成科学研究科

(〒113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1，

Tel.03-5841-6234/Fax.03-5841-852)

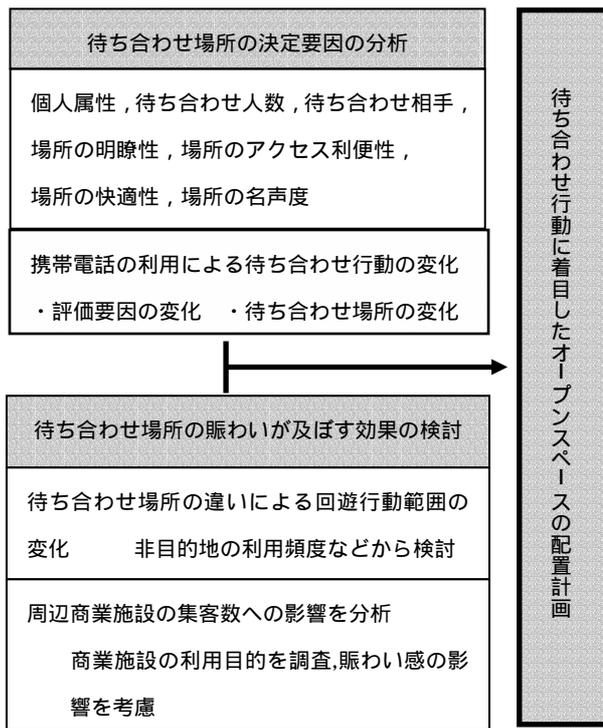


図1 研究の概要

2. 実態調査による待ち合わせ場所選択の分析

2-1 調査概要

待ち合わせ場所の決定要因を探るために、学生48名に表1のような条件を設定し、待ち合わせをした場所とその場所を選択した理由に関するアンケート調査を行なった。

表1 アンケート設定

	待ち合わせ状況	日時	目的地と目的
設定1	仲の良い友人と1対	平日・夜	歌舞伎町で飲食
設定2	1で待ち合わせ	休日・昼	高島屋で買い物

2-2 分析結果

1) 待ち合わせ場所

それぞれの設定において、選択された待ち合わせ場所とその人数を表2に示す。さらに、各待ち合わせ場所の位置と選択人数を図2及び図3に示す。図から、選択される待ち合わせ場所は目的地周辺よりも、来街地点となる駅周辺に集中していることがわかる。これは、交通手段が鉄道であることが影響している結果といえる。ALTA前や新宿駅南口などを待ち合わせ場所として選択する者が多かったが、ALTA前広場や新宿駅新南口など、定番の待ち合わせ場所から適度に近く、滞留人口密度が比較的小さ

いと考えられる場所を選択する者も多く見られ。また、池袋駅や飯田橋駅などを選択した者も見られた。このことから、交通手段のみではなく、双方がどこから来街するかということが待ち合わせ場所の選択に影響すると言える。

2) 選択理由

待ち合わせ場所の選択理由として明らかになったものを表3に示す。アンケート結果より、選択理由は場所の明瞭性・場所の快適性・場所の名声度・アクセス利便性・その他の制約条件に大別することができた。

設定1、設定2共通して、場所の明瞭性、アクセス利便性に関わる選択理由が多く挙げられた。一方で、場所の快適性に関わる選択理由を挙げた被験者は比較的少なかった。

表2 待ち合わせ場所と選択人数

設定1		設定2	
待ち合わせ場所	人数	待ち合わせ場所	人数
1.ALTA前	19	1.新宿駅南口改札前	15
2.新宿駅東口交番前	6	2.新宿駅新南口改札前	8
3.西武新宿駅前	4	3.サザンテラス	4
4.新宿駅東口前	3	4.高島屋正面玄関	3
5.ALTA前広場	3	5.高島屋店内	2
6.新宿駅東口改札前	2	6.新宿駅西口改札前	2
7.新宿駅看板下	2	7.LUMINE前	2
8.ドンキホーテ前	1	8.新宿駅東口前	1
9.My City内の喫茶	1	9.新宿駅東口交番前	1
10.小田急南口改札	1	10.西武新宿駅前	1
11.歌舞伎町交番前	1	11.駅南口エレベータ上	1
12.飯田橋駅	1	12.京王線改札前	1
13.LUMINE前	1	13.小田急線改札前	1
14.新宿駅西口改札	1	14.新宿御苑	1
15.みずほ銀行前	1	15.飯田橋駅	1
16.池袋駅	1	16.代々木駅	1

表3 選択決定要因

属性	理由	属性	理由
明瞭性	わかりやすい	アクセス利便性	目的地に近い
	相手を見つけやすい		駅から近い
快適性	時間を潰せる		目的地の途中にある
	人が比較的少ない		他交通のアクセス良
	天候に影響されない	相手の家・職場に近い	
	安全	携帯電話が使える	
名声度	座る場所がある	その他の制約条件	お互いが知っている
	タバコが吸える		いつも使っている
	知名度がある		お互い使う路線の改札口である
	待ち合わせ気分が出る		他に場所を知らない

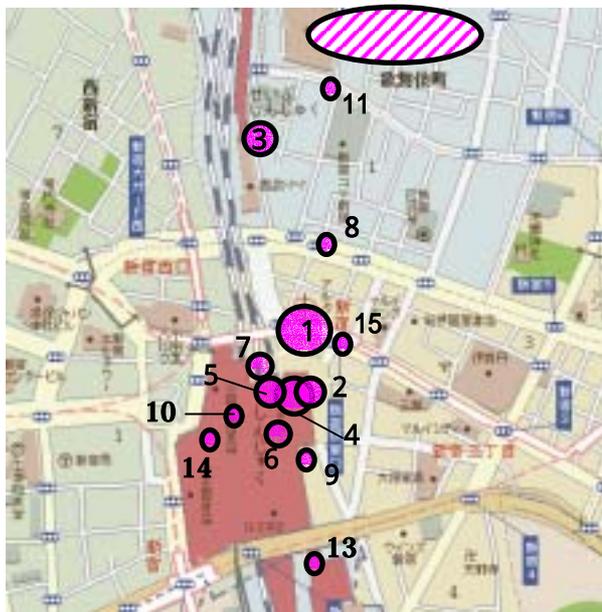


図2 待ち合わせ場所分布図
の大きさ：選択人数 斜線部分：目的地

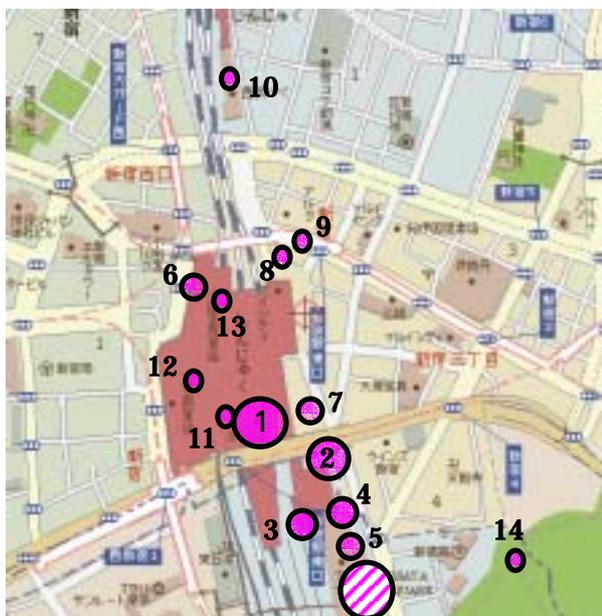


図3 待ち合わせ場所分布図
の大きさ：選択人数 斜線部分：目的地

表4 アンケート設定

待ち合わせ	友人と初めて待ち合わせ	
日時	日曜日の昼1時	
目的地(図3)	歌舞伎町	
設定した待ち合わせ場	ALTA 前	ALTA 前広場
	JR 新宿駅東口改札	紀伊国屋書店内
評価要因 (非常に重要・重要・重要でないの3段階で評価)	場所の明瞭性	A:待ち合わせ相手を見つけやすい
		B:待ち合わせ場所まで迷わない
	アクセス利便性	C:駅から近い
		D:相手が遅れた時、連絡を取りやすい
		E:他の場所まで移動しやすい
	場所の快適性	F:暇つぶしができる
		G:人が騒々しい
		H:その場所において疲れやすい
		I:居心地がよい
		J:待つ広さがある
		K:安全である
		L:知名度がある
	場所の名声度	L:知名度がある



図4 アンケート設定
丸数字：待ち合わせ場所 斜線部分：目的地

3. SP 調査による待ち合わせ場所選択の分析

3-1 調査概要

前章で明らかになった選択要因をもとに、待ち合わせ場所選択に関する SP 調査を行なった。表4及び図4に実験概要を示す。前章の結果をもとに、性質の異なると考えられる4つの待ち合わせ場所を設定し、被験者に待ち合わせ場所とその場所を選択した際に重視した要因について質問した。被験者は20代男女合計30人である。

3-2 分析結果

1) 待ち合わせ場所

図5に選択された待ち合わせ場所の割合を示す。ALTA前が4割を占めたが、これは前章の調査結果と同様の結果を示している。

2) 選択理由

図6に評価要因の集計結果を示す。図から「待ち合わせ場所まで迷わない」や「駅から近い」など前章で挙げた場所の明瞭性やアクセス利便性に関する要因を特に重要であると評価した人が多い。一方で、

「その場所において疲れない」「居心地がよい」など場所の快適性に関する要因は、重要視されているが先の二つの要因を満たした上で付加的に求められるものであると考えられる。また、これらの傾向は、前章の調査結果と同様の結果を示していると言える。

さらに、表5に選択された待ち合わせ場所ごとの評価要因の重要度を示す。表から、アクセス利便性を重要視する者はJR新宿駅東口改札口を、アクセス利便性に加えて場所の名声度を重要視するものはアルタ前を、アクセス利便性よりも場所の快適性を重要視する者は紀伊国屋書店内を選択していることが明らかになった。

場所の快適性						名声度
F	G	H	I	J	K	L
17%	8%	8%	0%	25%	8%	92%
50%	33%	67%	50%	58%	83%	8%
33%	58%	25%	50%	17%	8%	0%
0%	0%	25%	0%	0%	25%	25%
75%	50%	25%	50%	100%	75%	50%
25%	50%	50%	50%	0%	0%	25%
0%	0%	0%	0%	0%	33%	50%
33%	33%	67%	50%	67%	33%	50%
67%	67%	33%	50%	33%	33%	0%
100%	0%	63%	50%	0%	0%	0%
0%	0%	38%	50%	13%	63%	63%
0%	100%	0%	0%	88%	38%	38%

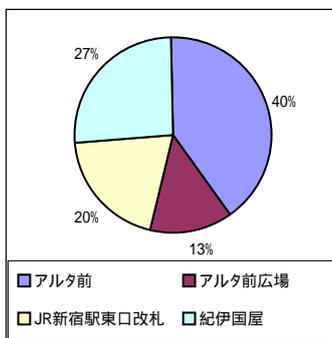


図5 待ち合わせ場所選択結果

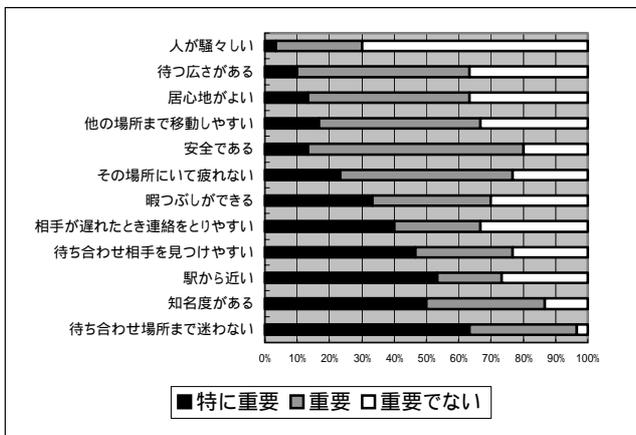


図6 待ち合わせ場所決定要因

表5 各場所における評価要因の重要度

場所	重要度	場所の明瞭性		アクセス利便性		
		A	B	C	D	E
アルタ前	特に重要	42%	100%	67%	67%	25%
	重要	25%	0%	33%	17%	42%
	重要でない	33%	0%	0%	17%	33%
アルタ前広場	特に重要	25%	50%	75%	25%	50%
	重要	75%	50%	25%	75%	50%
	重要でない	0%	0%	0%	0%	0%
JR新宿東口改札	特に重要	50%	83%	83%	33%	17%
	重要	33%	17%	17%	50%	50%
	重要でない	17%	0%	0%	17%	33%
紀伊国屋店内	特に重要	63%	0%	0%	13%	0%
	重要	13%	88%	0%	0%	63%
	重要でない	25%	13%	100%	88%	38%

4. まとめと今後の方針

アンケート調査から、待ち合わせ場所は主に来街起点となる鉄道駅とその周辺に集中していることが明らかになった。さらに選択要因としてアクセス利便性や場所の明瞭性が場所の快適性よりも優先される傾向があることがわかった。今後はモバイル情報による行動変化を踏まえた詳細な評価分析を行い、待ち合わせ場所の選択モデルを構築する予定である。さらに、回遊行動において派生する当初の予定外の活動などを調査し、周辺商業施設への集客数への影響を分析することで、待ち合わせ場所の活性化が及ぼす効果を検討していく予定である。

参考文献

- 1) 大原学武, 窪田陽一: 広場空間構成と利用形態に関する相関分析, 土木学会第52回年次学術講演会, pp.480-481, 1997
- 2) 吉富良輔, 中村芳樹: 待ち合わせにおける行動と場所の認識, 日本建築学会学術講演梗概集, pp.815-816, 1996
- 3) 斉藤美幸, 高橋鷹志, 岩佐明彦: 公共空間における場所と行為の関係性の考察, 日本建築学会学術講演梗概集 pp1083-1084, 2001
- 4) 大森宣暁: 情報通信利用による交通行動の変化に関する考察, 土木計画学研究・講演集 27CDROM, 2003
- 5) 加納征子, 長澤夏子, 山口有次, 渡辺仁史: 駅周辺の歩行者の回遊行動特性に関する研究, 日本建築学会学術講演梗概集, pp777-778, 2001
- 6) 木下瑞夫, 牧村和彦, 山田晴利, 浅野光行: 歩行回遊行動から見た地方都市における都心歩行者空間計画に関する一考察, 都市計画 232
- 7) 内田賢悦, 加賀屋誠一, 角田喬生, 萩原亨: 札幌都心部における駐車場配置からみた歩行回遊効果に関する研究, 土木学会年次学術講演会講演概要集, pp699-700, 2002